新所長就任あいさつ

農業研究開発センター所長　谷川　元一

平成 26 年４月１日付けで、農業研究開発センター所長を拝命しました。

本センターは、平成 28 年度に予定している桜井市池之内（旧　農業大学校敷地）への移転に当たり、研究のあるべき姿を見直していく中で、旧農業総合センターの研究企画、研究開発、技術支援（普及）の３つの機能をまとめ、本年度４月に新しく発足しました。今後は、これまで以上に社会ニーズを踏まえ、生産者や消費者などの視点に立って、漢方、育種、加工、栽培の分野で迅速に技術開発し、課題解決に取り組んでいきます。

また、これまで本センターに蓄積された研究成果や技術、遺伝資源などを最大限に活用するとともに、国や大学、民間企業の研究機関などと連携を図りながら、高度な研究を積極的に進め、着実に成果を上げて参りますので、変わらぬご支援、ご協力をお願いします。

平成 26 年４月から、奈良県農業研究開発センターとしてスタートしました

オンリーワンの研究開発と技術の普及で、奈良ブランド力の強化を図ります。

組織体制

- 所長
  - 研究企画・技術支援部
    - 総務課
    - 研究企画推進課
    - 技術支援課
  - 研究開発部
    - 育種科
    - 薬草科
    - 加工科
    - 基盤技術科
    - 果樹・薬草研究センター
    - 大和茶研究センター
    - 大和野菜研究センター

沿革

明治28年（1895）	奈良市油坂町に創設、奈良県農事試験場として発足
39年（1906）	果樹試験地を奈良市法蓮町に設置
大正12年（1923）	本場および果樹試験地を橿原市四条町の現在地に移転
13年（1924）	茶業分場を果樹試験地跡に設置
昭和26年（1951）	奈良県農業試験場と改称
32年（1957）	果樹試験地を橿原市慈明寺町に移転
37年（1962）	茶業分場を奈良市矢田原町に移転
38年（1963）	本館および附属施設を新築
47年（1972）	高原分場を宇陀市榛原三宮寺に設置
平成 6年（1994）	果樹振興センターを五條市西吉野町に設置
12年（2000）	奈良県農業技術センターと改称
18年（2006）	奈良県農業総合センターに組織改編
26年（2014）	奈良県農業研究開発センターに組織改編

主な研究内容の紹介

大課題	研究内容
薬用作物の安定供給	県では、「漢方のメッカ推進プロジェクト」を立ち上げ、薬用作物の生産から漢方薬や関連商品の製造、医療現場での臨床や研究を通じた漢方薬の有効活用等について検討を行っています。その中で、薬用作物に係る研究の高度化を進めることとしており、センターでは生薬の供給拡大に向けて、栽培技術の高位平準化を図るため、優良品種の育成と省力・安定生産技術の開発を行います。
優良品種の育成	消費者・実需者のニーズに対応した高品質で魅力ある品種の育成は、ブランド力を高めるために重要です。そこで、これまでに蓄積された育種ノウハウ、収集・保存している遺伝資源などを最大限に活用するとともに、DNAマーカーを用いた育種など先端技術を利用して、市場性の高い奈良オリジナルの優良品種の育成を進めます。
加工商品の開発と加工技術の研究	本県農産物のブランドを強化するには、奈良オリジナルを訴求できる特色ある加工や農産物が有する機能性の解明など、付加価値を生み出すことが重要です。そこで、イチジクやカキなどの県産素材を用いて、美味しく健康機能性にも富んだ新しい奈良オリジナル加工品を開発し、商品化を目指します。また、大和野菜が有する機能性を評価し、それを高める栽培法や調理・加工法、新商品を開発します。
革新的な生産技術の開発	本県農業の生産性向上とブランド力強化のためには、安全性の確保を基本とし、より一層の省力化と高品質栽培技術の開発が重要です。また、病害虫防除および土壌管理、バイテク等、各作目の安定生産にとって欠かせない共通の基盤となる技術開発を推進する必要があります。そこで、本県の農業生産に貢献するため、これまでの技術にとらわれない革新的な技術を開発します。

奈良県農業研究開発センターニュース　No.146
2014年6月30日発行

編集発行　奈良県農業研究開発センター
TEL　0744-22-6201
FAX　0744-22-8068
URL　http://www.pref.nara.jp/1761.htm
印　刷　山本印刷所

この広報紙は、再生紙を使用しています。